



のあゆみ 変わります！！

～評価は、ペーパーテストだけじゃない！？～

いよいよ小学校では令和2年度から新学習指導要領が全面実施となりました。求められる資質・能力が三つの柱で整理され、学習評価についても、これまでの4観点（国語のみ5観点）から、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到変わります。今回は、あゆみの具体的な評価方法について少しお話します。



① 「知識・技能」とは・・・

学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価するとともに、それらを概念等として理解したり、技能を習得したりしているかどうか

【具体的な評価方法】知識や技能の習得を問うペーパーテスト＋「深い理解」

「深い理解」とは

子どもたちが文章による説明をしたり、各教科等の内容の特質に応じて、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど実際に知識や技能を用いる場面を設けるなど、多様な方法を適切に取り入れていくこと等も考えられます。



② 「思考・判断・表現」とは・・・

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうか

【具体的な評価方法】ペーパーテスト＋「自分なりの考えを出すこと」

「自分なりの考えを出すこと」とは

論述やレポートの作成、発表、グループや学級における話し合い、作品の制作や表現等の多様な活動を取り入れたり、それらを集めたポートフォリオを活用したりすることなどです。その授業で、「あなたはどうか考えるのか」が重要になります。



③ 「主体的に学習に取り組む態度」とは・・・

知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みの中で、自らの学習を調整しようとしているか

【具体的な評価方法】授業中の粘り強さ＋「自分なりの学習PDCAサイクルを回すこと」

各教科等の特質に応じて、発達の段階や一人一人の個性を十分に考慮しながら、ノートやレポート等における記述、授業中の発言等が評価を行う際の材料の一つとして考えられます。また、子ども自身が、PDCA（Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善））を回しているかどうかは、授業の中でわからないことをメモしたり、調べ直したりするなどメタ認知的な態度が見られるか、学習計画をどんなふうに立てているのか、学習の仕方を工夫しているか、などからも見取ることができます。